

## 会設立からの歩み

### 20 平成15年度総会開かれる



4月15日、中央公民館で総会を開き、今年度の事業計画などを決めた。松くい虫対策として「薬剤散布やむなし」の方針を決定したほか、商工会議所

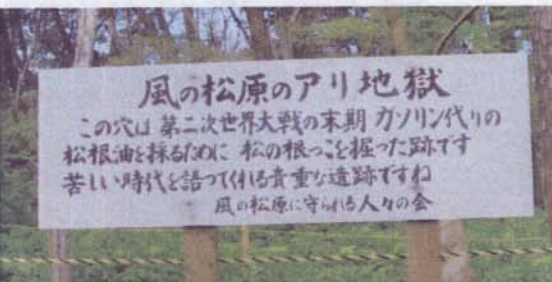
が準備を進めている「風の松原を守る市民ボランティア大会」には、会員個人の資格で積極的に参加することを決めた。会長・副会長は再任され、新任役員は監事の佐々木利雄、塚本誠子、事務局の田中芳夫、浅野ミヤの諸氏が選出された。

### 21 野鳥の水場を整備

4月23日、10名が参加して風の松原内の野鳥の水場2か所の整備を行った。あいにくの雨の中の作業だったが、水受け台の枯葉や泥を取り払って清掃し、周囲の低木ややぶの下刈りをし、環境の整備を図った。

水場は野鳥の水浴びや水飲みのために造られたが、設置・管理者が不明で今まで放置されていた。それでも水場は、コンクリート製の直径、高さとも約60cmの円筒状の貯水マスと、その前面に設けた半月形の水受けがセットになったものが合計8セット配置されている

### 22 松根堀り場跡説明板を設置



5月7日、サンウッド前の松根油を採取した根堀り穴

前に説明板を設置した。ここは昨年の11月にクリーンアップした際に「何の穴か、解説が必要であるのでは」との意見に基づいたもので、第二次世界大戦の歴史として能代に残す史跡の一つになった。

### 23 バードウォッチング

5月10日、朝6時から7時30分まで風の松原のバードウォッチングを試みた。参加者は16名で、指導員役になった会員の渡部進さんと布施久太郎さんから手始めになる探鳥の基礎を学んだ。

観察範囲、歩く早さ、耳をすませて鳴き声で野鳥を発見するコツが伝授され、2グループ、2コースに分かれトリムランニングコースの野鳥の豊かな鳴き声の競演に耳を傾けた。



鳴き声で野鳥を探す

### 24 巣箱のコース整備

5月14日、昨年取り付けした巣箱のコースを整備しようと巣箱を探したが、広葉樹の伸びた若葉の茂みに隠れ、発見できなくて苦労した。それでも16箱設置した中の2箱を見つけ点検したら1箱に営巣が確認され大喜びをした。

今後の対策として、落葉後に巣箱の確認し、コースを整備することを話し合った。

### 25 市民トーキング

5月24日、中央公民館で風の松原市民トーキングが開催され、基調講話には大高一成・日本住宅木材センター技術相談員(山本町)が、「松を守ろう、いま、できることは。」をテーマに行われた。

大高さんはスライドを使いながら、風の松原の成り立ちやクロマツの特性、広葉樹や菌類・キノコの進入具合などを紹介した。

さらにマツノザイセンチュウとその運び屋であるマツノマダラカミキリ、そしてクロマツに成立する「マツ枯損」



大高さんが基調講話を語るのメカニズムをわかりやすく解説し、「現時点では被害拡大阻止には、薬剤散布しかない」と話された。そして「古木を中心に本数を確認して、一本一本の市民責任者を決めて保全運動を展開する」ことを提唱された。

この後、参加者による意見交換が活発に行われたが、「幅広い市民の理解が必要だ」という意見が多かった。

## 26 県有林間伐地の再処理

「風力発電所近くの県有林で昨年の7月から8月にかけて間伐を行ったが、切った松の枝の搬出残りにマツノマダラカミキリの産卵が見られる」という話が森づくり推進課から飛び込んだ。

急いで、5月28日に運び残した松の枝を処理することにした。



参加者が驚いたのは、写真のように枝を割るとマツノマダラカミキリの幼虫が中におり、その生態のすさまじさであった。切られた松の枝は特別な臭いを発し、誘引するのだそうで、間伐の時期に配慮する必要を痛感した。

## 27 伊藤忠夫氏と国有林散策

5月30日、伊藤忠夫元静岡大学教授夫妻を迎えて、風の松原の松くい虫被害の現況見学会を開催した。この日は会員15名の参加で、風の松原内の地帯区分試験地や伐採現場、樹幹注入木、それに松くい虫被害木を見て回った。



伊藤夫妻と被害木を見て回る

伊藤元教授は「松くい虫被害の拡大を心配していたが、思ったよりはいい状態ではあった。風の松原を守っていくには、市民の協力が必要。市民ボランティア大会も開かれることになり、心強く思っている」と語った。

## 28 風の松原を守る

### 市民ボランティア 1

6月1日、商工会議所の「風の松原を守る市民のボランティア大会」の第1日目が開かれた。会員はそれぞれ個人の資格で参加することを総会で決めていたので、会員の参加人数は把握できなかった。

開会式では、趣旨に賛同し個人として駆けつけた寺田県知事が「風の松原は、近くにある世界遺産・白神山地に匹敵する県民の財産。国とよく相談して対策にあたっていきたい。行政には自ずと限界があり、こうした市民の皆さんの力添えがぜひとも欠かせない」とあいさつした。

市民は三つのブロックに分かれ、松くい虫の被害木の間伐と回収、広葉樹の伐採の松林整備作業、ビン・缶・ゴミなどの回収と積載、搬出作業などを雨の降る中で実施した。雨脚が強くなったので早めに切り上げたブロックもあったが、熱気に包まれたボランティア活動であった。

## 29 風の松原を守る

### 市民ボランティア 2

6月8日、第2回目の商工会議所の「風の松原を守る市民ボランティア」が実施され、会員も多数参加した。

雨にたたられた前回に比して、好天に恵まれ、むしろ真夏を思わせる強い日差しの受けながらのボランティア活動になった、今回も3ブロックに分かれ、午前9時から正午までそれぞれ心地よい汗を流した。

各ブロックでそれぞれビン・缶・ゴミなどを回収・積載、松くい虫の被害木の伐採・回収、広葉樹の伐採・回収などの松原整備を行い、トラックによる運搬・搬出作業など展開した。

2回行われ、延べ1400人を超える人々が参加した活動は、風の松原を守りたいという市民の願いの結集である。

## 30 古きを訪ねて

7月12日、古きを訪ねては「古い砂丘と湿地帯・松原の広がり」をテーマにして能代市外のかつて松原であった場所を訪ね歩いた。

旧出戸沼跡、萩の台墓地公園、旧青葉園跡、旧坊主山跡、出戸神社、栗田神社などの場所を探し、事務局で準備した昭和30年代の能代市街の写真や地図



萩の台墓地公園で説明を聞く

を見たりして、昔の松林の場所を確かめ、講師の山木吉長・能代ロマンを語る会の会長さんの解説に耳を傾けた。

## 31 植物観察会

### 樹木名札取り付け箇所

7月24日、午前9時30分から、トリムランニングコースを中心に、取り付けした樹種名42種、67枚の名札をたどりながら、樹木をじっくりと観察し、その特色などを調べた。



樹木の解説を聞きながら確認

今年はミツバアケビの実が豊富に見られた。観察の途中、コースに伸びた灌木の枝を取り除いたり、樹種名札を付け直したりして楽しい2時間であった。

また、今後の活動の在りかたとして散策路付近の枝払いも考えてよいのではないかとという意見も出た。